

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	広島県	市町村名	広島市	大学名	
派遣日時	令和7年8月28日(木曜日) 14:00~17:00 14:00~14:30 校長室で打ち合わせ(齋藤アドバイザーご対応) 14:30~14:35 冒頭挨拶・講師紹介 14:35~16:05 齋藤アドバイザー講話 16:05~16:25 質疑応答 16:25~16:30 挨拶 16:30~17:00 校長室で質疑応答(齋藤アドバイザーご対応)				
実施方法	派遣 / 遠隔 ※いずれかに○をつけてください。				
派遣場所	広島市立基町小学校				
アドバイザー氏名	東京学芸大学教育学部日本語日本文学研究講座 教授 齋藤 ひろみ				
相談者(受講者)	広島市立学校教職員 広島市教育委員会指導第一課、指導第二課 指導主事				
相談内容等	文部科学省「JSLカリキュラム」の考え方を参考にした学習参加の支援について ① こどもの日本語教育の課題について ② こどもの多様な実態の把握について ③ 文部科学省「JSLカリキュラム」の考え方を参考にした学習参加の支援、特に日本語と教科の学習内容をどのようにつなげるか				
派遣者からの指導助言内容	「社会参加のための日本語の力を育む ~こどもたちの生活と学習を支援する~」 と題して御講演いただいた。 ① こどもの日本語教育の課題について ・ 成長・発達過程にあるこどもにとって、ことばを獲得するということは世界を広げ成長・発達することである。 ・ 日本語教育の課題として、「A 学校・社会生活」「B 学習・認知面の発達」「C アイデンティティ形成・自己実現」がある。この3つの課題を意識した日本語指導、在籍学級での支援を進めることが重要である。 ② こどもの多様な実態の把握について ・ 文化間移動、発達状況と環境、教科の力と学習経験、言語の力と学習経験など、こどもの実態を複数の目で多面的に、そして定期的に把握し、一人ひとりの実態に応じて、指導を計画・実施することが重要である。 ③ 文部科学省「JSLカリキュラム」の考え方を参考にした学習参加の支援 ・ 「JSLカリキュラム」を参考にした学習参加の支援の考え方には、以下の4つがある。これらの支援の考え方は、在籍学級での学習支援にも有効である。 ○ 持っている力や経験を土台に、それを発揮して学ぶ。				

	<ul style="list-style-type: none">○ 探究型の活動をしながら、日本語を使う。○ 仲間との協働・コミュニケーションを通じて学ぶ。○ 活動を通じて気付き・考え、判断したことを日本語で伝える。・ 「日本語と教科の統合学習」(JSLカリキュラム)のねらいは、教室空間で、学習活動に仲間と共に参加するための日本語の力を育むことであり、内容(教科)の学習文脈に埋め込んでことばを学ぶことが重要である。・ 「JSLカリキュラム」の実践例<ul style="list-style-type: none">○ 知っている動詞で授業の流れを示す。○ 聞く・話す・読む・書くの4技能を探究の活動の中でバランスよく使わせる。第6学年社会科「長篠の戦い」の学習で、合戦図屏風を見ながら、気付きを付箋に書き、仲間とマトリックス表に整理する際、児童が気付いたことに先生が言葉掛けを行い、確認した言葉を使って書く。○ 概念化のための言葉を、児童がおおよそ理解できたときに示し、日本語で言語化させる。第5学年算数科「単位量あたりの大きさ」の学習で、まとめの際に、先生が単位量という言葉伝え、「〇〇を単位量といいます。」と日本語で言語化させる。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">・ 本市では、日本語学習教室を小学校4校、中学校2校に設置している。その内、小学校2校、中学校1校を日本語指導の拠点校として位置づけ、日本語指導コーディネーターを各校に1名ずつ配置し、学校における指導体制の構築を図っており、引き続き指導の充実を図っていく必要があることが改めて確認できた。・ 齋藤先生の指導助言を受けて、日本語教育の課題や「JSLカリキュラム」の考え方を参考にした学習参加の支援について日本語指導担当教員だけでなく在籍学級担任との共通理解や支援が重要であることを改めて確認することができた。今後の研修等で、日本語指導担当教員のみでなく、学級担任にも広く周知していきたい。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。